



- 1 センター夏祭り
- 2 ～はじめて夏祭りに参加して～
- 3 ～はじめて夏祭りに参加して～
- 4 療育活動
- 5 年間行事
- 6 節電・つなぎ法案
- 7 学会・研修
- 8 人事異動・院内研修

■ 夏 祭 り ■

指導員 佐藤 洋

稚拙ながら夏祭り実行委員長を務めさせて頂きました佐藤です。去る 8 月 5 日(金)、天候に恵まれながら、第 19 回目となる当センターの夏祭りが開催されました。その約 5 カ月前には、東日本大震災と福島原子力発電所の緊急事態に多くの方が見舞われました。私事で恐縮ですが、実家は仙台空港のある宮城県名取市にあります。幸いにも、家族や親族、友人に不幸はありませんでしたが、現在もなお、被災地では大変な思いをしている方が多くおられます。

このような、例年とは異なる状況下での夏祭り実施に向けて、夏祭りあり方検討委員会や実行委員会では、多くの議論を重ねました。そして、電力を必要としている地域への『支援』と『配慮』を考えた末、『節電』と『規模縮小』を柱とした夏祭りとなりました。

節電に関しては、模擬店の内容や食事販売数の変更、電力使用量の再考を行いました。規模縮小では、盆踊りの中止や大きな音の出るアトラクションに関しては中止と致しました。メインイベントの花火に関しましても、前日の天気予報(※当日は終日、雨の予報となっております)により中止の決定を行いました。このように例年とは大きく異なり、制約の多い夏祭りであったにも関わらず、実に多くの皆様にご参加いただいたことに対し、非常に有難くまた嬉しい思いで一杯です。

一方で、花火や盆踊りを楽しみに、毎年、夏祭りに参加されている皆様のご期待に添うことが出来なかったことに対し、実行委員長としての責任と無力さを痛切に感じております。当日までを振り返りますと、限られた環境の中であったとしても、もっと皆様が楽しんで頂けるように工夫することが出来なかったものかと反省しております。

今は唯、被災地の一刻も早い復興と安全で安定的な電力供給源の確保が実現し、全ての人にとって安心した生活が訪れるようにと願ってやみません。

各部門の職員を始め、利用者さんにご家族の皆様のお力添えにより、一人として体調不良の方もなく無事に夏祭りを終えることが出来たことを、実行委員一同を代表し、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

●○●はじめて夏祭りに参加して○●○ ～新任職員より～

夏祭り

第 1 病棟指導員 高橋 達也



今回初めてセンターの夏祭りに参加させて頂きました。節電の夏ということもあり、規模を縮小した夏祭りということでしたが、職員の方も利用者さんも楽しんでいて、とてもにぎやかな夏祭りでした。私自身も利用者さんと一緒に出店を楽しんだり、チェロの演奏会を楽しんだり、夏祭りを満喫しました。夏祭りという大きなイベントということもあり、利用者さんの笑顔もたくさん見ることができました。利用者さんの楽しそうな笑顔を見て、私も自然と笑顔がこぼれてしまいました。

来年の夏祭りではもっとたくさんの笑顔を見るために、今年よりも一段とにぎやかな夏祭りを職員の皆さんと作っていきたいと思います。まだまだ力不足ですが、これからもよろしくお願い致します。

笑顔の夏祭り

事務部庶務係 氣賀澤 さやか

前日から不安定な天候で、花火は中止。悪めのコンディションとは裏腹に、高めのテンションで始まった夏祭り。普段はスーツ姿の事務部職員が、ジャージ姿に変身しているだけで何だかもう楽しかったです。

省エネ・節電の実施に伴い、例年より小規模で開催された夏祭り。盛り上がり心配する声もありましたが、そんな心配ご無用でした。利用者さんは、浴衣・ネイルアート・フェイスペイントでお洒落して、模擬店で美味しいものを食べて、バルーンアート・ピエロさんを見て、笑顔になっていました。ご家族・職員・ボランティアの方々は、利用者さんの笑顔を見て、笑顔になっていました。そんな交わり合いが、小規模な夏祭りに大規模な笑顔をもたらしていました。

センターが笑顔のパワースポットみたいになっていて、私はそれが嬉しくて、笑顔になりました。たくさんの笑顔に出会えて、幸せいっぱい夏の祭りでした。



夏祭りについて

第 4 病棟看護師 小沢 あゆみ

8 月 5 日(金)に行なわれた今年の夏祭りは規模を縮小しての実施となりました。私は今年の 3 月に入職したので初めての大行事の参加となります。第 4 病棟は模擬店でたい焼きとスイートポテトの販売をしました。私は店長をやらせて頂きました。

夏祭り実行委員や栄養科の人が親切に指導、協力して下さったおかげで何とか完売できました。昨年より規模が小さいとはいっても沢山の人で会場はにぎわっていました。

浴衣を着ていつもと違う雰囲気ウキウキとした利用者さんが事前に購入した券を握りしめ、おのこの好きなものを食べたりゲームをしたりして楽しんでいました。中にはビールとおつまみを握りしめていて、声をかけると胸の下に隠そうとして、付き添いの保護者の方に「取られたら大変だと思っているのよ!」と言われ、「だって 1 年に誕生日と夏祭りをうんと楽しみにしているんだもん!!」と照れくさそうに笑顔で話して下さる姿がとても印象的でした。



皆さんは、
今年の夏祭りで
どんな思い出ができましたか?
来年も楽しい
センター夏祭りができますように。



療育活動

夕涼み会

第 1 病棟指導員 松永 正人

8 月 29 日(月)に夕涼み会を行いました。その日はカラッととした絶好の日和で、少し早目の夕食の後、テラスに集合しました。S さんの挨拶で会がスタート。手持花火の火花があちこちで咲き始めると、出るのをためらっていた利用者さんからも笑顔がこぼれ始めました。そして、40 本近くある噴水花火に次々と火が点けられると、噴き上がる花火に合わせて、笑顔と共に歓声があがりました。花火の締めは、やっぱりナイヤガラです。BGM はヒルクライムの「春夏秋冬」。時を惜しむように夕涼み会を締めくくってくれました。

第 1 部が終わると、テラスに出ることができなかった利用者さんが集合した部屋の窓の外で、噴水花火とナイヤガラを行いました。横になりながらも窓越しの花火にうっとり見とれていらっしかったです。

キラキラ輝く花火と共に笑顔もいっぱい輝いた夕涼み会。今年初花火だよ、超楽しかった、と口々に言いながら職員もわいわい楽しんだ夕涼み会。とてもいい夏の締めくくりとなりました。



宝を探しにいざ出発 !!

第 3 病棟指導員 大和田 美保



暦では秋分を迎えようとしているのに、外は暑くて散歩はまだまだ難しい…。でも車椅子で散歩はしたい…。

という事で、3 病棟ではセンター内の色々な場所にお宝を隠し、散歩を兼ねて宝探しゲームを実施しました。利用者さんはカーテンの裏や階段の影、他病棟の入口や職員の靴の中!? などいろいろな所を探し、見事にお宝を見つけることができました。今回のお宝はジャ〜ン!! 金のメダル。実はこの金のメダル、100 円玉と交換してジュースを買える仕組みになっていたんです。お宝を手に入れたら、自動販売機へ直行! 自分でボタンを押し、好きなジュースを

買う方や職員と一緒に選ぶ方、早く飲みたくて待ち切れない方やジュースがなかなか決められない方…。

皆さん様々な様子が見られましたが、最後はしっかりとジュースを握って 3 病棟へ帰ってきました。そして、お待ちかねのティータイム。自分で見つけたお宝でゲットしたジュースは、いつもより格別の味だったようでした。

●○○年間行事○○●

夕べの会

通所看護師 今井 永子



今年度は、節電の関係でプールが実施できなくなるというハプニングがあり、急遽活動内容を小院内にラウンド 1 でボーリング大会に変更しての夕べの会となりました。果たして、利用者さんに満足していただけるのだろうかと職員一同不安でした。

6 月 24 日 (金) の第 1 班、時間内に 2 度行われるチャンスタイムに 2 回ともあたった K さん。なんと見事 9 ピン倒し商品を GET しました。

つづいて第 2 班、飛び入り参加のバス乗務員の着ぐるみ姿の応援が功を奏したのか、なんと K さんは、160 点を超えるハイスコアを出し、得意顔でした。

7 月 22 日 (金) の第 3 班では、S さんが途中席を外した方に代わって投げ、なんと 1 点差で自分よりハイスコアを出してしまい喜んで良いものか複雑な表情をされていました。

意気込み過ぎて優勝を逃した方や、逆に何気なくストライクを出す方など誰も予想出来ない展開に、途中から職員が真剣になってボールの行方に一喜一憂していました。

センターに戻り、今日は夕食も通所で皆で食べ、いつもと違う夜のドライブを楽しみながらの帰宅でした。職員も、きっと利用者さんも楽しんでいただけた夕べの会でした。

駒澤大学高等学校吹奏楽部演奏会

第 2 病棟指導員 高田 貴二

9 月 23 日 (金)、秋分の日には駒澤大学高等学校吹奏楽部の演奏会がありました。総勢 58 名という訪問演奏会の中で一番規模の大きな音楽会です。

プレイルームがコンサート会場へと変わり、利用者さんが今か今かと期待を胸にくまませたその瞬間、「ハイデスブルク万歳」の曲でオープニングを飾ってくれました。続いて、被災地復興の願いを音に託して「ふるさと」を奏でてくれました。微かですが、ふるさとを口ずさむ歌声もプレイルームに流れていました。続いて、



スウィングジャズ、ディズニーメドレー、そして今回は誰もが知っているあのグループのメドレーが!! そうです、AKB48 です。ファンの方達も多かったようですね。サンバのリズムに合わせて、みんなで踊ったあのリズムも、今でも残っているのではないのでしょうか。

アンコールでは、「マルマル モリモリ」の曲を、高校生が踊りを披露してくれました。来年は、何の曲が流行って、盛り上がるか楽しみです。

■ 東大和療育センターの節電への対応 ■

省エネ・節電対策検討会議議長 萩原 良紀

ご利用者、ご家族の皆様をはじめ関係者に、今夏における節電対策の取り組みにご協力をいただき心からお礼を申し上げます。今年の暑さは、6月の半ば過ぎから真夏日や猛暑日が始まるという大変に厳しいものでした。当センターは、電力の大口需要家であるとともに、都立施設として率先して節電に取り組む社会的使命がありました。こうした中で、利用者の安全面とサービス面への影響などに配慮しながら節電効果を上げるというバランスに期間を通じて苦心しました。

「省エネ・節電対策検討会議」は、東日本震災後の4月中旬から今夏の電力を効率的かつ効果的に使用するために都の電力対策緊急プログラムの方針等を踏まえ、15%削減を目標とした省エネ・節電計画を作成し、関係者への説明と協力を求めながら実行しました。

節電の大きな鍵は、空調系、つまり冷房運転にかかっていました。当初計画では、室内の温度設定を28℃とし、冷温水発生機は2台のうち1台を停止する計画でした。ところが、暑さが増すにつれ、「冷房の効き方がよくない、部屋が暑い」といった声が出てきました。また、1台運転による機械への負荷が大きくなり、空調効率の低下や機器への悪影響が懸念されたため、冷温水発生機を2台運転に変更するという計画修正を行いました。

この結果、削減目標の達成が苦しい見通しとなりましたが、病棟(実際には25℃程度)など利用者に影響が出ないように留意しながら、空調の間引き運転の再調整や送風機その他機器類の一時停止の操作などきめ細かな対応に努めました。

さらに、照明器具に関しては、安全性や作業効率を検証しながら廊下等施設内照明の一部消灯や可能な限りの蛍光灯の間引きを実施するほか、管理部門等における昼休みの一斉消灯などに取り組みました。また、各部門では、それぞれが独自の節電対策を工夫して実行しました。例えば、病棟では、ゴーヤによる緑のカーテンをご家族と職員が分担して朝夕2回の水やりを行って育てました。この機会を通じて相互の会話がより一層増えたこと、収穫したゴーヤ(多い病棟は100本程度)を持ち帰って楽しく調理したことなど、節電対策の副産物がありました。

紙面の都合上、節電への取り組みの一例でしたが、多くの関係者のご協力と節電への工夫・努力によって厳しい電力状況の中、当初予定の約3週間の前倒しで目標をほぼ達成することができました。本対策検討会議では、今後の節電対策の参考とするため、各部門がどのように知恵を絞りどのような効果があったのか、また、課題や問題点は何かなど、今夏の節電対策の総括を進めています。

これからも、日常的な節電努力は怠りなく続けてまいります。ご利用者、ご家族の皆様、また、職員には、これまで同様にご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

■ 第 14 回 日本医薬品情報学会に参加して ■

薬剤検査科 薬剤師 齋藤 登代治

この度、7月23日(土)、24日(日)に東京都江戸川区のタワーホール船堀にて開催された第14回日本医薬品情報学会に参加させていただきました。この学会は、医療従事者、大学関係者、企業の関係者、行政担当者など、医薬品情報学に関する様々な専門家が集まり、医薬品開発プロセスとしての創薬・医薬品適正使用に役立つことが多く発表されていました。

1日目には、東大大学院の先生の講演があり、「医薬品情報学の研究が推進されれば、既存の医薬品が医療消費者や医療従事者にとって有用で安全な医薬品へと進化できるようになり、適正な医薬品使用につながる」とお話しされ、研究者の考え方がよくわかりました。

2日目には、「医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の活かし方」などの講演や「IT・ユビキタス社会と医薬品情報」と題されたシンポジウムなどが行われ、シンポジウムでは最先端の情報技術(IT)が医療の分野で患者様、医療従事者、薬局などの方々への支援の可能性について話し合われていました。

また2日間を通して、様々な研究のポスター発表もあり、最近の研究にも触れることができ、有意義な2日間を送ることができました。今後、今回の経験を仕事に生かしていきたいと思えます。

■ 退院支援研修報告 ■

在宅支援室 医療ソーシャルワーカー 三村 さやか

「チームで行う退院支援」に出席いたしました。受講対象者は医療社会事業従事者(医療現場で社会福祉に携わる者)、主催者は東京都福祉保健局、講師は昭和大学病院総合相談センターのソーシャルワーカーと退院調整看護師でした。研修のテーマは「多職種協働・連携による退院支援」で、昭和大学病院では総合相談センターで医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務・栄養士・薬剤師が連携しシステムとして退院支援を行っているとのことでした。

10月1日から、当センターでは「在宅支援室」が開設されました。退院支援は在宅支援室の主な役割のひとつです。入院をきっかけに、患者さんの生活もご家族の生活も大きく変化することがあります。退院後の生活をイメージすること、その生活のために患者さんにご家族ができること、支援者がお手伝いできることなど、福祉の専門職の立場で患者さんにご家族と一緒に考え進めさせていただきます。また、退院支援や在宅支援に限らず、当センターの患者さん・利用者さん・ご家族がご希望に沿った生活ができるよう、他の専門職と共にお手伝いいたします。



7・8・9月の院内研修

基礎コースⅠ	○安全管理
基礎コースⅡ	○摂食・嚥下障害ケア ○呼吸ケア
基礎コースⅢ	○安全管理
一般コース	○療育研究(第3回) ○看護診断
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア(第2回) ○呼吸ケア(第2回)

10・11・12月の院内研修予定

基礎コースⅠ	○呼吸ケア安全管理	10/11(火)
基礎コースⅡ	○安全管理 「職場における感染防止対策」 ○看護(療育)記録① ○看護(療育)記録② ○2年目のまとめと課題(第1回)	11/24(木) 10/7(金) 11/9(水) 10/21(金)
基礎コースⅢ	○摂食・嚥下障害ケア ○呼吸ケア ○看護(療育)記録① ○看護(療育)記録②	11/4(金) 12/2(金) 10/7(金) 11/9(水)
一般コース	○療育研究(第4回) ○療育研究(第5回)	10/3(月) 11/18(金)
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア ○呼吸ケア(第3回) ○呼吸ケア(第4回)	10/25(火) 10/27(木) 12/15(木)

編集後記

初めてそよ風の編集に携わりました。最近の出来事を文章で表わす体験を通し、センター・職員の役割を再認識することができました。(S.M)

虫たちの声があちこちで聞こえてくる秋の夜長。先日、ふと立ち寄ったコンビニでデザートをみつけ、今度はお腹の虫が騒ぎだしました。(T.S)



そよ風第 66 号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成 23 年 10 月 15 日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10
☎ 042-567-0222

印刷 有限会社 はじめ印刷

☎ 042-560-3031